学校自己評価システムシート

（令和３年度）

目指す学校像	・音楽芸術の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目指す
本年度の重点目標	1.基礎学力の育成と充実(①音楽活動を始め諸活動を生きて働いて人の知識・技能の習得を図る　②教科等横断的な学習を通し思考力・判断力・表現力の育成を図る→主体的・対話的で深い学び) 2.豊かな人間性の涵養(①音楽を触した各教科等を通して豊かな感性を醸成する ②全教育課程を通して、道徳教育を推進し、他者ともに、よりよ良く生きていく人間性を涵養する) 3.健やかな体の育成（保健体育を触して、音楽活動、社会活動を展開していくための基礎体力を育成する）

学校名	東邦音楽大学附属東邦第二高等学校	※学校関係者評価とは、最終回の学校評価懇談会で、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。（実施日合和４年３月１７日）
課　程	全日制・音楽科	学校関係者：４名

領域	評価項目	年度目標：現　状　と　課　題	年度目標：具体的方策	年度目標：方策の評価指標	中間評価：進行状況	年度評価：評価項目の達成状況	年度評価：達成度	年度評価：次年度への課題と改善策	学校関係者 評価：学校関係者からの意見・要望・評価等
学習指導	○ ・基礎学力の育成と充実 ○基礎的、基本的な知識・技能の確実な定着と充実 ①音楽活動をはじめ諸活動で生きて働く為の知識・技能の習得を図る ②教科等横断的な学習を通し思考力・判断力・表現力の育成を図る→主体的・対話的で深い学び ○思考力・判断力・表現力等の育成(対話的で深い学びの実現に向けた授業改善) ①音楽を触した各教科等を通して豊かな感性を醸成する ②全教育課程を通して、道徳教育を推進し、他者ともに、よりよく生きていく人間性を涵養する ・学び に向かい合う力、人間性の涵養(主体的な学びの実現)	・音楽の基礎科目である『楽典Ⅱ』、入試科目として設定せず入学後基本的な学柄から指導していく事を基本方針としている。しかし、実際、指導をしていく過程で、次第に学力差が顕著になっていく現状が見受けられる。同じく、ソルフェージュに於いても同じような傾向が伺える。各教攻実技の演奏実技力と表現力をより円滑に育成していくために、音楽の基礎である『楽典・ソルフェージュ』の学力を如何に向上させていくかが、大きな課題となった。 ・ 来年度より、新学習指導要領の施行に伴い編成した新教育課程の普通科目、音楽科目の指導内容に関して共通理解を図った。 観点別評価：①知識・技能　②思考・表現・判断　③主体的に学習に取り組む態度の中で、③の『主体的に学習に取り組む態度』を観点とし、各教科・科目の特性を鑑みて担当教員が指導・評価の検討を進めていく事とする。	『楽典・ソルフェージュ』の学力向上の為には、個々の音楽科目としての指導と同時に、『楽典・聴音・新曲視唱』の担当者が連携して①生徒が苦手としている要素には何があるのか、②何が共通している傾向がなのかをこうかを調べる、③①②の結果として、生徒がそれらをクリアーできる方法を検討していく。 本校の新カリキュラムに於いても、新しい観点から教科の指導に取り組む科目が導入されているので、その科目の指導目標の理解と指導方法を実際の検定教科書を参照しながら、担当教員が研究していく事とする。	『楽典・聴音・新曲視唱』の学習には、生徒の潜在的に持っている能力に起因する部分が大き(影響するものの、それぞれの生徒のレベルに合った題材と個別指導等、生徒個々の状況により時間がかかる場合がある可能性があるもしれないが、生徒に学習し習得した達成感を感じさせながら継続した指導を進めることとする。 本校の新カリキュラム編成に於いても、普通科目と音楽科目とで、教科等で横断的な学習が実施しやすいので、旧カリキュラムより幅広い視点での授業展開が可能である。例えば、普通教科の"地理"や"歴史"と音楽教科の"音楽史"、また、普通教科で英語の"論理・表現"と国語の"現代の国語"などは、論理的な文章作成・コミュニケーション能力の育成には共通点が多い、両者とも実践的なコミュニケーン能力の育成を目標としている。	・『聴音・新曲視唱・コールユーブンダン』に於いては、従来より実施されている、『習熟度別クラス』での共通した教材とそのクラスに適した教材の見直しと、それを使っての授業展開を実施し、その習得状況を検証していく。 ・ 現行の本校の教育課程による1～３学年揃っての指導は今年度が最終となる為、新カリキュラムへ移行するに当たっての指導内容・指導方法の下に共通点と相違点の移行処置を考慮し授業展開の方法を検討していく。	・『聴音・新曲視唱・コールユーブンダン』に於いては、指導と生徒のその習得状態には、生徒個々の度合いに違いはあるものの成果は認められた。しかし、『楽典』に於いては、理論的に組み立て理解を積み上げていくという科目の特性があるため、生徒は反復学習によって楽典の知識は増えているものの、それを応用して次に進む思考力・判断力を必要とする領域では、指導する側に更なる工夫が必要である。 ・新カリキュラムによる学習は来年度からの実施となり、スタートしてみて、実際の授業の様子、生徒の反応・理解度により、臨機応変な指導上の対応は不可欠である。現時点では、現行のカリキュラムによる学習成果を脱みながら、新カリキュラムにおいて生徒が興味・関心を持って授業に取り組める方法の検討を進めていく。	A	・音楽の基礎である、『楽典・ソルフェージュ』においては、２年生、３年生の『音楽理論』の授業の一部で、継続して指導していくこととする。高大連携接続の方針から、高校での学習から大学進学後の学習がより円滑に継続できるよう、再度生徒の学習状況の推移を検証していく必要がある。 新カリキュラムの普通科目の中で、特に新科目の指導に当たっては、指導担当者は、その科目の『指導目標』、『指導内容』、『指導方法』に当たって、『学習指導要領』を基本に、具体的な教授方法を検討しておくこととする。	〇高い評価を受けている項目 1.学校経営全般　学校は、音楽芸術の探究を目標とした高大連携接続教育(一貫教育)の実践に取り組んでいる。 2.教育課程全般 学校は、実技の指導に於いて、この特性、能力に応じたきめの細かい指導評価を行い、知識・技能・のみならず、一人ひとりの興味・関心に応じ、主体的な取り組みが出来るような工夫を図っている。特に、東邦第二コンサートなどでは、さまざまな形態の演奏(アンサンブルなど)で、自主的、主体的な学びの機会が得られる。 3.生徒指導全般：学校は職員室の専任教員全体で、生徒に対する共通理解を図り、学校生活における基本的な生活習慣の確立に努力している。 〇学校として次年度に向けた対応策 生徒指導の面において、基本的生活習慣の改善(挨拶礼法、綺麗な言葉遣い、個人所有物の自己管理、携帯電話の使い方)の指導を是非継続して欲しい。 〇改善要望項目 "学校行事"は、定期試験(学科試験・実技試験)の準備期間を考慮して、年間行事の適切な時期に組み入れて欲しい。
	○　普通科目の基礎学力の定着と充実 ①先ず、『国語、数学、英語の基礎的な学力の現状』を把握し、各教科において、これからの学習を進めていく中で必要不可欠な基本的な学習項目を、具体的にどのように身につけさせていくかの指導案を検討する。 ②特に、高校一年生では、基礎学力に差が付きやすい３教科の指導に当たって、中学校の学習内容の復習を授業に取り込みつみ指導していく事と並行して、高校での各科目の指導目標の達成に向けて、分り易く・繰り返し・丁寧に指導していく必要がある。	・中学校での主要３教科（国語・数学・英語）の基礎学力の現状を検証した結果、その定着が十分でないケースが見受けられた。 中学校の新学習指導要領の指導内容は、前回よりかなりボリュームを増し、その学科目・教科の学習とその定着には多かれ少なかれ負担が掛かっていると考えられる。 更に、音楽科受験生には専攻実技の試験準備の練習に更に時間が費やされる傾向がある。 そこで、本校では、今まで以上に、高校一年生から、これらの教科の指導に当たっては、中学校での学習内容の復習を取り入れながら、生徒たちがその内容がどの程度理解され、学力として定着しているかを詳細に確認し、中学から高校への橋渡しの学習指導により力を入れて指導を進めていく事とする。	基礎学力の確実な定着を目的とした指導に当たっては、各教科・科目担当教員は下記の項目に注意を払うこととする。 ①その時間の授業のポイントを分かりやすく明確に生徒に提示する。 ②授業内で可能な限り、質問・小テストなどを取り入れて理解度を確認する。 ③生徒が授業内容を正確に理解しているかどうかを、課題・レポートの提出等で再度確認する。 ④各学期の評価に当たっては、現観点別評価の『意欲・関心・態度』の状態を判断する一つの手段として、上記課題等の提出を徴底させる。	・基礎学力の定着に関しては、『反復学習』により効果が認められた。 ①国語の『漢字』の学習の指導では、『漢字ワーク』の定期的な宿題とその提出。次に、その宿題の範囲の『漢字テスト』の実施。テストでは合格基準を設定し、基準以下のものには、再度同じ範囲の『漢字テスト』を課す。 ②英語では、各学期適宜、教科書とは別に時間内に『RapidReading』:平易な英文を、短時間で読み、その内容がどれだけ理解できたかの練習。そのプリント１枚を使い、生徒との英語での質疑応答、各Paragurahごとの内容を生徒が英語で説明するなど、短時間での英文解釈のスキルの向上が期待できる指導を増やすことがカギとなる。	基礎学力に関する教科・科目の指導に於いてだけではなく、その他の教科・科目（音楽科目も含め）、定期試験の結果だけでなく、観点別評価の評価対象となる、課題の提出、ノートの提出、普段の小テストの結果を総合して『各学期の評価』となることを、改めて生徒・保護者に伝え、日頃の学習への取り組みの大切さを再確認した。	・『基礎学力』の定着とその充実に関しては、『国語力』の４つのスキルの習得が他教科・科目の学習を進めていく中でも大きな課題となる。 ①日本語を正確に『読む』『書く』『聞く』『話す』という４つの基本的な言語運用能力が習得されてこなかった為、高等学校での普通教科・科目の学習、更には音楽科での専門設定科目の学習に支障きたしている場合がある。 ②その対応策は、各教科・科目を指導していく中で、その教科の内容を指導していく事と並行して、その教科における実際の日本語の使われ方の指導を教科の特性を生かした指導していく事とする。 ③特に、『数学Ⅰ』は高校１，２年で、４単位の履修となる為、そのなかで基礎的な分野を習得させることは必須である。	A	・学習指導要領に基づき、必修の普通教科・科目の履修・修得は、音楽科の専門教科・科目の履修・修得の前提となるもので、それらの学習のベースとなる基礎学力の定着と充実をさせる方策は、来年度から施行される、新学習指導要領の指針と照らし合わせながら、更なる検討が必要な項目となる。 、来年度の１年生から始まる"観点別評価"と"評定"との整合性の取れた成績表については、作成中。	
2 生徒指導	○ １基本的生活習慣の確立の指導 ・挨拶礼法 ・綺麗な言葉遣い ２授業規律の確立 ・時間厳守 ・下校時間の徹底 ・個人所有物の管理 ・携帯電話の規律ある使用方法 ３思いやりのある人格形成	1.基本的な生活習慣の確立 ・挨拶礼法～概ね確立されはいるもの、まだ完全ではなく継続した指導で徹底化を図っている。継続した指導をしていく事とした。 ・綺麗な言葉遣い～教員に対するけじめのある言葉遣いと友人間との言葉遣いとの使い分けの指導が必要な生徒が見受られた。 2.授業規律の確立 ・『登校時間厳守の指導』は全学年・全員の遅刻０を目標とした。 下校時間については、５時完全下校を目標として、その徹底を図った。遅刻０はなかなか指導が難しい状況が或るものの継続してその指導に取り組んだ。 ・個人所有物の自己管理に関しては、生徒の机上の整理整頓が出来ていない状況が見受けられ、時にして教科書、ノートの紛失が見られた。 ・本校での携帯電話の指導 秩序ある使い方の指導をHR・全体集会で徹底した指導をしているが、時々不適切な使用による生徒間のトラブルが見受けられる。	１『下校時間の徹底』は昨年度からの指導課題でもあり、ほぼ徹底されてきた。 これは、継続した指導により『規律ある習慣』の確立が出来たと考えられる。 下校時間の厳守・徹底は生徒の安全・安心を確保するために、必要不可欠な課題であった。 ２個人所有物の自己管理の徹底を図るために、各担任は、毎日放課後の校内巡視の際、HRの生徒の机上の整理整頓の状態をチェックする必要性があった。 ３今年度、生徒の安全、保護者の安心を学校として確立する為に、川越警察生活安全課の協力により『防犯講話』『薬物乱用防止教室』を計画し生徒への注意を喚起させていくことを計画した。	１『下校時間の徹底』に関しては、生徒指導主任と日直教員との連携で毎日継続指導していくので、ほぼ徹底できた。ただ、本校は音楽科であり、実技レッスンが時として下校時間後に終了する場合もあり指導の難しさがあった。 ２『個人所有物の自己管理』については、毎日の教員による下校指導と連動させての指導の結果として、改善が徐々に認められた。また、教室内の整理整頓においては、生徒個人の認識に温度差があり中々改善に苦慮していた。 ３計画どおり、川越警察・生活安全課の金子信人氏による、『防犯講話』『薬物乱用防止教室』での具体例を挙げての講話は、登下校時の安全確保、又、薬物の危険性に対に対して、生徒達に注意を喚起させた。	年度初めの『生徒指導方針』の一つに掲げている『時間厳守は』、『全体集会』や『ホームルーム』でも繰り返し指導を継続していく結果として、大きな改善が認められてきた。しかし、まだ１００パーセント徹底されているわけではい現状はある。『言葉遣い』に関しては、不適切は言葉の使い方があった場合には、その場で改めさせている。	・１基本的生活習慣の中での『下校時間の厳守』には学校として総力を挙げて、基本的な学校生活の規律の一つとして取り組んできた。新型コロナウイルス感染症の対策の一つとして、通学電車が密にならない時間帯での下校を促していった。 ２生徒個人の机上の『個人所有物の自己管理』については、毎日放課後、担任による整理整頓にも関わらず、徹底させるにはまだ課題が残った。 ３『防犯講話』『薬物乱用防止教室』は最近マスコミで時々取り上げられる事件や事故を回避る為の注意喚起に役立っていた。更に、近年まだまだ問題を引き起こしている『携帯電話の安全な使い方』については、これからも継続して指導していくものとした。	B	１『時間厳守』はこれからの実社会におけるキャリア教育の根幹となる部分で、『基本的な生活習慣の確立の最重要課題』の一つとなり、継続して根気よく指導していくことが不可欠である。 ２『教室内の整理整頓』はそのクラスの『学習環境』に影響が大きく、来年度も継続指導の必要性が認められる。 ３来年度は再度『携帯電話の安全教室』の開催を計画し、SNSの使い方が日々変化している現状の中で、生徒間の誹謗・中傷の原因となる可能性が大き、生徒の安全・安心な学校生活を確保するため、更なる細部に渡る指導の必要性がある。	
3 進路指導	○ 高大連携接続という音楽を軸にした一貫教育システムの実践により、音楽芸術の探究を目指す。附属高校生に系列大学の『具体的な教育内容とその目的』と『大学卒業後のキャリア支援の方策と現状』を入試広報センターとの連携のもとに進めていく。	・高大連携接続（音楽を通じた７年間の一貫教育）の教育指導計画とその具体例を、今年度は『附属高校生とその保護者(1～3年)に焦点を合わせたプログラム』を広報入試センターが大学と高校とで内容、開催の時期を協議し、『本学園における音楽を軸にした高大連携接続教育の実際』を附属高校生と保護者に提示することとした。	『本学園における音楽を軸にした高大連携接続教育の実際』(附属高校生とその保護者(1～3年)　を対象とした大学紹介の企画)は、"スペシャルオープンキャンパス"という名称で、５月２３日（日）に開催することになった。 内容は、(1)大学の各専攻の紹介、②ウィーンアカデミーの短期留学研修の具体的な説明、③レクチャーコンサート、④キャリア支援センターより（キャリア支援教育と卒業生の具体的な就職状況）とする。	・"スペシャルオープンキャンパス"（５月２３日（日）開催）は、３学年の生徒、保護者の参加は勿論のこと、１、２年生の生徒、保護者の参加も多く、高校を卒業した後の進路、更に、大学卒業後のキャリアとの結びつきも具体的に卒業生から直接話を聞ける場面もあった。附属高校生には大学進学の際の専攻の検討と大学卒業後の進路を幅広い視点で考えることができる良い機会となっていた。また、保護者の目線で、音大卒業後、学生がどのように社会と関わっていく可能性があるかが具体的に理解されていた。	スペシャルオープンキャンパスは、附属高校生に、高大連携接続による"本学園の７年間の音楽教育の実際"と"大学卒業後の為のキャリア支援教育の実際"の両面を具体的に生徒・保護者に説明する良い機会となっていた。	・今までの『大学紹介』『体験状業』が大学・入試広報センターより一方的に生徒、保護者に提供する傾向があったものの、今回の"スペシャルオープンキャンパス"（５月２３日（日）開催）は、事前にその内容の明確な目的、内容の工夫とその詳細、キャリア教育についての現状の説明など、生徒、保護者の目線で組み立てられていた内容なので、昨年度より、附属高校生とその保護者にとっては生徒の将来を考える良い機会となっていた。	A	・大学教育全体の中での"音楽大学"の使命は、それぞれの大学の教育方針の基づくものであるものの、本大学だからこそ可能である教育の"核"となる部分～客観的に"教育の本来の姿"を附属高校生が認識できるように、更に創意工夫を凝らした来年度の"スペシャルオープンキャンパス"の開催を、大学、広報入試センターと検討していくことする。	
4 演奏活動・ボランティア活動	○『音楽芸術への実践的な取り組み』 ・学内外演奏会の実施 ・オペラ公演『カルメン』(オペラ彩) （12月18日(土),19日(日):サンアゼリア）	新入生歓迎演奏会（４月２０日） 東邦第二コンサート（６月６日） 合唱コンクール(６月１９日) 定期演奏家（ソロの部）（７月１１日） 東邦ニュージッテフェスティバル(１０月 9日、１０日) 定期演奏会・ウインドオーケストラ（ウエスタ川越）(１１月１２日) 定期演奏会（合唱の部　（１１月２７日） 定期演奏会（オーケストラの部）（１２月　４日)・・・以上が開催予定。新型コロナウイルス感染症の状況を適宜検討し開催を決定していくこととする。	学内外演奏会に出演する候補者については開催を前提に選出していく。 オペラ彩で毎年、合唱団として参加しているが、今年度の『カルメン』の合唱練習は、例年、８月より土曜日、日曜日を中心に稽古を始める。全体の練習・稽古以外にも第二高校の声楽専攻の専任教諭が放課後等、学内で合唱(基礎練習)の指導をし、それを全体練習に生かせるようになっている。 【今年度の練習開始はまだ未定】	新入生歓迎演奏会（４月２０日） 東邦第二コンサート（６月６日） 合唱コンクール(６月１９日) 定期演奏家（ソロの部）（７月１１日） 東邦ニュージッテフェスティバル(１０月１０日）までは、開催実施済み。 今後のことについては、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら開催を検討していく事とする。オペラ『カルメン』の公開はまだ検討中であり、高校生の合唱練習も開始されていない。	・11月、12月には、学内外における多数の演奏会の開催予定があが、文科省コロナ感染症マニュアルを遵守し、安心・安全を最優先として検討していく事とする。	・定期演奏会・ウインドオーケストラ（ウエスタ川越、１１月１２日） 定期演奏会（合唱の部、１１月２７日） 定期演奏会（オーケストラの部、１２月４日） 以上の演奏会は、新型コロナウイルス感染症対策を文科省のガイドラインを遵守し開催することに決定した。 オペラ彩『カルメン』の公開が決定する。生徒は声楽専攻生を中心とした１１名が合唱に参加することが決定。早速、合唱（フランス語）の練習計画も決まり、強行軍のスケジュールであるものの参加する生徒たちには意欲的に取り組む姿勢が伺える。	A	・今年度は、予定していた、学内外での演奏活動は新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、全て開催できたあことは生徒たちの士気を高めていた。 ・オペラ彩『カルメン』も開催決定までに時間が掛り準備に苦戦した。オペラ全体、本校合唱も準備も間に合い、オケ合わせ、立ち稽古と進み本番２日間とも成功裡に終わった。舞台芸術は、音楽科の生徒達にはこの上ない魅力であり、日常の学習では味わえない貴重な体験を得られるチャンスである。来年度は、『秋父晩緯』の公演が決定している。	
	○ ボランティア活動とその具体化については、再検討をしていく。	・今年度のボランティア演奏会の実施に関して 南古谷病院でのミニコンサート【未定】 東部ふれあいセンターでのミニコンサート【未定】 帯津三敬病院でのミニコンサート【未定】 （今後のボランティア活動の時期と内容と活動範囲は状況を見て検討することとした）	新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しつつ、今後のボランティア演奏会の実施の可能性を鑑みて大まかな計画は立てておいた。 演奏形態・演奏曲目・演奏者の選考は、具体的に演奏会の見通しがついた段階で、早めに検討し諸準備を始めることとした。	生徒たちの日常の学校生活の中で、『ボランティア活動の位置づけ』とは何か、また、その活動の具体化と範囲を再検討することとする。 （生徒会を中心に）	新型コロナウイルス感染症の影響により、近年、地域連携活動の実施が困難状況が見られる。 その中で、状況によって、例えば、"規模、活動人数の縮小や活動内容"を検討してみてはどうか。	・新型コロナウイルス感染症からの影響を回避するため今年度の下記のボランティア演奏会の実施は全て中止が決定した。 南古谷病院でのミニコンサート 東部ふれあいセンターでのミニコンサート 津三敬病院でのミニコンサート		・来年度も新型コロナウイルス感染症の影響が懸念される面から、ボランティア活動は『演奏会』のみに限定せず、様々な形態の活動を検討し、地域貢献への積極的かつ意欲的な活動となるように努力していく。	
	○ 地域との交流と連携の大切さを生徒たちに認識させ、その具体的方策を検討する。	・南古谷ウインドオーケストラの活動：通常は、毎週土曜日午後、近隣の中学生、高校生、社会人と本校のウインドオーケストラの有志が参加し、地域吹奏楽団体として活動。【今年度は新型コロナウイルス感染症からの影響を回避するため当面活動休止】 南古谷ニューイヤーコンサート(南古谷地区の小・中・高等学校、また地域住民との活動）：今年度は、新型コロナウイルス感染症のため中止とする。	南古谷ウインドオーケストラの活動。【当面休止】 ニューイヤーコンサートin南古谷。【中止予定】 （第二高校ウインドオーケストラ(本校の『合唱団』～本校の教育課程に位置付けられている～)が授業の発表演奏として参加予定だった）	・東邦音楽大学で毎週土曜日午後、地域連携活動の一つとして、地元の中学生・高校生・一般社会人から構成されている、南古谷ウインドオーケストラの練習（演奏）は地域の音楽芸術に対する意識の向上に長年に渡って貢献してる。【当面休止】	ボランティア活動を通して、生徒は人に対する思いやりと、チームワークの大切さを学んでいる。 【当面休止】	・定例化しているニューイヤーコンサートin南古谷は、近年は地域からの参加団体も増え、更なる充実が図られている。同時に、これに参加する本校生徒たちに、地域貢献の意義をより一層理解させる良い機会となっている。 【今年度は中止決定】		・今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった、『南古谷ウインドオーケストラの演奏活動』、『ニューイヤーコンサートin南古谷』は、『地域に根ざした音楽への意識の向上』を目指した活動である為、感染状況次第ではあるものの、制限がある中でも充実した演奏活動・演奏会を出来るような計画は、来年度に向けに準備は進めていく事とする。	
	○ 埼玉県近郊の『音楽系高等学校との合同演奏会』の実施。音楽専門教育の活性化を図る。	・音楽教育の活性化を図る為に近隣の音楽系高等学校が参加して、『第10回北関東甲信越音楽系高等学校合同演奏会』を６月１２日（土）開催予定。新型コロナウイルス感染症に対する、文科省のガイドラインに沿って、安心・安全を第一とする中で開催予定とする。 （東邦第二高等学校主催）	『第10回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会』：6月15日土曜日実施 開催に当たって新型コロナウイルス感染症に対する万全の対策を取って実施した。具体的には、(1)演奏会場内の換気(30分毎)②演奏者の周囲：アクリル板、シールド使用③ソーシャルディスタンスを確保③入場者の制限④入場者の手・靴底の消毒⑤検温～文科省のガイドラインに準拠。	・『第10回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会』：本校音楽ホールで各校の代表演奏者による演奏会を新型コロナウイルス感染症の感染者を出すことな無事終了できた。意見交換会は演奏会終了後ホールで実施した。来年度の開催に向けて、演奏時間、演奏形態の見直し等を検討していくこととした。	『第11回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会』の打ち合わせは、早めに電話・メールにより始める。	・演奏会を通して、各学校の演奏した生徒達は、それぞれが日々で培った演奏テクニック・表現力などを振り返ってみる良い機会となっていた。来年度は、『音楽系高等学校間の親睦を図る』という基本方針のもとに、より良い演奏会の形態と、幅広い参加校の拡大を目標に開催の準備を進めていくこととする。		・『第11回北関東甲信越音楽系高等学校演奏会』は来年度６月11日に開催する予定。学校間の交流を図りつつ、生徒達の演奏技術と音楽性の向上を目指し、更により良い演奏会を計画して行くこととする。	